

11月15日（火）及び16日（水）の2日間にわたり、静岡大学電子工学研究所主催による高柳健次郎メモリアルシンポジウムが浜松キャンパスのS-Portにて開催されました。

本シンポジウムは、浜松高等工業学校（現・静岡大学工学部）で研究され、「日本のテレビの父」と呼ばれている故高柳健次郎先生の業績を称えるとともに、同氏の意味を受け継ぎ、イメージングサイエンスの更なる発展を目指して、研究者の集いの場として平成11年より毎年開催されています。特に、今年度は、高柳健次郎が、1926年に世界に先駆けてテレビを発明して、90年の節目の年となっています。第18回を迎える今回のシンポジウムは、

### Toward Advanced Imaging Science Creation

#### — Innovative Development of Nanomaterials and Nanodevices —

と題して、ナノサイエンスの研究者6名が国内外から招待され、最先端の成果が報告されました。また、今年度からネットワーク型研究拠点として研究連携を進めることとなった、東京医科歯科大、東京工業大、広島大から、代表する若手研究者を招き、新たな研究領域「生体医歯工学研究」に関連した最新成果が発表されました。その他、高柳賞の受賞者による講演、電子工学研究所の新メンバーによる研究内容の紹介及びポスドク、ドクターコースの学生によるポスターセッション31件の発表が行われ、活発な議論がなされました。二日間の会議での参加者は、延べ239名（うち海外から68人）にのぼり、シンポジウムは盛況の中で、閉幕しました。

第 18 回高柳健次郎記念シンポジウム（平成 28 年 11 月 15、16 日）

写真 1（伊東学長挨拶）



写真 2（三村所長挨拶）



第 18 回高柳健次郎記念シンポジウム（平成 28 年 11 月 15、16 日）

写真 3（講演会場）



第 18 回高柳健次郎記念シンポジウム（平成 28 年 11 月 15、16 日）

写真 4（ポスター会場）

